

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 西山 悠大
所属 (School) 大阪府立大学大学院
学年 (Grade) 博士前期課程 2年

留学先 (Name of overseas institution)
ブラジル リオデジャネイロ
留学期間 (study abroad period)
2018年7月8日~2018年7月16日

記入日 (Date) 2018/7/20

留学レポート Study Abroad Report

今回、9th Symposium of Turbulence, Heat and Mass Transfer - THMT2018がCasa do Colégio Brasileiro de Altos Estudos (Rio de Janeiro, Brazil)において、2018年7月10日~13日まで開催され、私も発表者として参加しました。また、主催者にアポイントを取り、学会最終日の13日には研究室を見学させていただきましたので、その概要と、自身の経験について紹介します。

THMT2018に参加、自身の研究成果を発表

7月10日から13日は、Casa do Colégio Brasileiro de Altos Estudos (CBAE)で開催されたTHMT2018に参加しました。

まず前日9日夕方からはレジストレーションのみが行われていましたが、その際にツアーで近くの地域歴史博物館 (Catete Palace: Museum of the Republic)に見学に行きました。学会でツアーが組まれているのは、国際学会ならではの気がして、興味深い体験ができました。

10日から基調講演と発表セッションが開始されましたが、非常にハイレベルな内容ばかりで、英語であることも含めて内容を理解するのに苦労しましたが、自身の研究テーマに近い発表はスライドと短編集からある程度まで理解することができ、疑問点が出てきたことも含めて有意義な時間を過ごしました。

私自身の発表は12日に行われましたが、発表は非常にスムーズに行うことができました。しかし、質問内容を上手く聞き取れず、ずれた回答をしてしまったことは今回の反省点の一つです。



ツアーの様子



自身の研究発表

Universidade Federal do Rio de Janeiro (UFRJ) の研究室見学

開催前に指導教員の須賀先生から、現地の Universidade Federal do Rio de Janeiro (UFRJ) 大学の Freire 先生にコンタクトを取っていただき、予定では学会側が希望参加者を募る形で見学が行われる予定でしたが学会開催前にすでに行ったとのことで、学会会場でこちらから改めて挨拶に伺い、13日の学会終了後に見学する運びとなりました。見学は私と同研究室の助教、名大の博士学生、東工大の先生もご一緒で。案内は UFRJ の先生にいただきました。

まずはお昼ということで大学の食堂に向かいました。お寿司や醤油がbuffeスタイルのメニューとして存在し、食事のときにもブラジルと日本の文化的な様々な接点について教えていただきました。そういえばホテルのメニューにも“shitake sauce”（椎茸ソース）と書かれていたことを思い出し、ブラジルが身近に感じられました。

その後に実験棟を案内していただきましたが、非常にスケールが大きく、またきれいに整頓されていることが印象的でした。石油会社がスポンサーに付いており、大型の実験装置や高額のカメラ等、設備の充実度が日本では考えられないような規模で驚きました。今後も建物を増やしていく予定とのことで、実験をするには最適な環境であり、羨ましさを感じずにはいられませんでした。一方で、研究はスポンサーの意向を無視することはできないのでどうしても石油関連の研究がほとんどとなり、研究テーマの自由度は狭めだと思われます。しかしながら設備の大きさを活かした管直径の大きな水、砂、塩、油の混合流実験や、3階まである研究棟を縦に貫く流路での空気と水の混合実験など、興味深い実験が数多く行われており、見ているだけでわくわくしてくるものがありました。

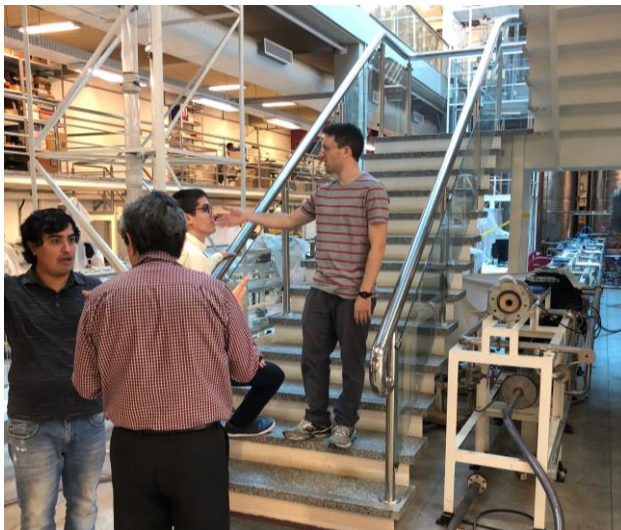
実験設備をほとんどすべて説明していただきましたが、それだけで見学時間を使い切ったようなもので、残念ながら研究室の学生との交流はほとんどありませんでした（説明も基本的には案内の先生が行い、学生の姿はあまり見かけませんでした）。しかしながら日本では見られないような実験設備を見ることができ、より産業応用を意識した研究を紹介いただき、研究に対する知見が広がったと感じています。

もう一つ、驚いたというか感心したのが、整理整頓が非常に丁寧にされていたことです。床には余計なものが置かれていないのはもちろん、机の上も紙等が散らばっているということもなく、工具も全て壁に掛けられており、工学系実験室とは一見して思えないようなきれいさでした。日本国内の研究室は床面積が大きくはないのでどうしても詰め込むような整頓になってしまいがちですが、やはり細かいところで見習うべきことがあるのだなと実感しました。

研究室の学生との交流を行う時間はあまりありませんでしたが、現地の先生からは研究だけでなくブラジルと日本の文化の接点等の興味深い話を聞くことができ、貴重な時間を過ごすことができました。

最後に

今回はもっとも日本から離れた国に行きました。現地に向かうだけでかなりの体力を消耗することにはなりましたが、ここまで来たからこそ得られる様々な体験、経験が得られたと実感しています。今まで南米、特にブラジルに行ったことがないという方へ、もし機会があれば遠いからと敬遠せずぜひ一度訪ねてみることをおすすめします。注意さえしておけば危険もありませんし、最遠国での交流や文化体験は絶対に貴重で有意義な体験となるはずで、費用面でも様々な方面から援助が受けられますので、機会があれば積極的に行動してみましよう。



研究棟の学生たち（手前は案内の先生）



研究棟内のサッカー場